

# 第18期町田市立図書館協議会

## 第2回定例会議事録（要旨）

日 時 2019年9月27日（金）午前9時30分～11時30分  
場 所 町田市立中央図書館 6階中集会室

出席者 （委員）澤井 陽介、松本 直樹、小澤 智幸、岩田 哲生、  
清水 陽子、鈴木 真佐世、石井 清文、  
吉田 和夫、小西 ひとみ、若色 直美  
（事務局）図書館長、図書館副館長、図書館担当課長、  
中央図書館職員4名

欠席者 （委員）なし

傍聴者 1名

○事務局 ただいまから会議を開会する。定足数である過半数の出席を満たしているので会議は成立している。机上の資料を確認願いたい。では会議の進行を委員長に願います。

<議事>

【会議録の確認】

○委員長 「会議録の確認について」事務局から説明願いたい。

○事務局 第1回会議録について議事内容そのものについて意見はなかったが、複数の委員から発言者を明記しないことに対して意見があった。事務局としては、委員という立場での発言なので自由な発言を担保することを目的として個人名は割愛した。ただし、今後案（委員への確認）の段階では個人名を記載し、確定（公開）の段階で個人名を削除したい。

録音データについては事務局に来てもらい確認することは可能。個人的な録音は不可とする。

- 委員長　　まず個人名について。意見や質問は？
- A委員　　それぞれに責任をもって発言しているので、個人名を伏せる必要はないのでは。
- 事務局　　一般的な議事録の形にしたい。また、案件によって自由な発言を妨げることがないようにしたい。名前の記載がないことで支障はないと判断した。
- 委員長　　職名だけあればいいようにも感じるが、今までやってきたことからの変更なので、何か意見は？
- B委員　　変える必要はないのでは。自由な発言を妨げることはないと思う。
- C委員　　組織を代表して出席しているから、あっても構わないと思う。
- D委員　　SNSの時代となり、中傷など個人情報という面から考えるとちょっと怖い気もする。それぞれに責任をもった発言となるので、なくてもいいと思う。
- E委員　　校長会の代表として出席しているが、名前はなくてもいいのでは。この議事録を誰がどのように使うかわからない部分もあるので。
- F委員　　どちらでもいいと思う。危惧を持っている方がいることから、検討してもいいかと。
- A委員　　立場がわかるから、載っていた方がいい。
- 委員長　　多数決では決められない難しい案件だと思うが、事務局としてはどうか。
- 事務局　　インターネットの時代となり、怖さがある。1人でも危惧されている方がいるのであれば、変えていったほうがいいと思う。名前を伏せても責任をもった発言はできると思う。
- 事務局　　今日は確定せず、再度検討としたい。

- 委員長 1人でも危惧されているとなると方針を固めてからのほうが良いと思う。
- B委員 個人的な録音ができないのはなぜか。
- 事務局 データになるので、どういう形で出回るかわからない。録音の方は事務局で責任をもって行っているので、それで確認してほしい。
- B委員 自分たちの会へ報告するための個人的な確認のため、使用したい。
- 事務局 会議録は、確定するまでは外部に公表すべきものではない。会の活動のための録音は趣旨が違うのでは。
- G委員 この会議は公開となっているので、傍聴人もメモを取っている。そもそも、会議録が確定したら録音データを処分することの方が問題なのでは。
- 事務局 町田市の文書管理規程で会議録確定後、音声データは処分と決まっていることだが、次回に持ち越しとしたい。
- 委員長 名前とデータ消去の時期、録音について、次回に再確認とする。では次、「効率的・効果的な図書館サービスの方向性」について事務局から説明願いたい。

**【効率的、効果的な図書館サービスの方向性について】**

- 事務局 今回意見をいただきたいテーマは2つ。1つはめざす姿の実現に向けたサービスアクションプランへ4つの取組項目「移動図書館の出張運行」「学校図書館支援の充実」「地域協働による図書館運営」「中高生の居場所づくり」について。もう1つは、「2024年度以降の図書館の展望と取り組むべきこと」について。
- 委員長 まず、4つの取組みについて意見を。次に2024年度以降の取組みについて意見を。まず移動図書館について。すべての意見につい

て、それ以外と絡んでもいいのか。

○事務局 構わない。移動図書館については、利用率が下がっていく中で、現在の3台のうち2台を通常の巡回運行、残り1台を人のいるところへ運行するといった運用も考えている。移動図書館3台をどう活用していくか、いろいろな意見をいただきたい。

○A委員 8館を市の方針で今後減らすとなると、図書館から遠い地域はさらに増えるので、運行するポイントを減らさない工夫をして欲しい。イベントに参加する意図は？

○事務局 「エコフェスタ」、「冒険遊び場」に出向くなどPRに努める。出張運行を2020年度は試行で、2021年度から実施したい。あり方にも書いているが、利用率が下がっている中で、現状のままというのは難しい。行かれなかった所についてどうしていくかについては皆さんのお知恵をいただきたい。

○G委員 配架されている本が入れ替わる周期は？移動図書館の本が変わらないという意見もある。

○事務局 利用者との会話の中でリクエストに応えながら担当者が入れ替えをしているが、半年に1回替えることはない。

○G委員 そういう素朴なレベルで、利用者を放しているという見方もある。そういったことを考えるとニーズが減った運行を見直そうとはならないのでは。

○委員長 システム以前に中身に問題があるという意見をいただいた。

○D委員 人数が減ったから不要、ではなく、少ない人数でも必要。数字だけで切り捨てないで欲しい。冒険遊び場に移動図書館がきて元気な子供たちが本と触れ合う機会があるのはありがたい。そこから子供たちが図書館に足を運び、新たな居場所になればうれしいなと思う。

○B委員 数字が少なくなったから見直すではなく、増やす方法の検討が先では。例えば、幼稚園のお迎え場所や商店街等、ポイントの見直しや、

移動図書館で予約の受け渡しができるようになったので、その機能をアピールし、予約した本を持ってきてくれる図書館として宣伝することもできるのでは。

○F委員 高齢者施設に出向くのはいいこと。学校でもニーズがあればポイントになるかと。あとは自治会にも声掛けして地域と連携してやっていくのもいいのでは。

○C委員 強化していくのか、止めるのか継続するのか。方向性をはっきりさせてから議論すべき。お金がかかる内容なので。ただ、縮小していく方向には反対。

○委員長 いろいろな意見がでた。皆さんの意見としては縮小ではなく様々な可能性を検討してもらいたいということ。事務局で持ち帰っていただいて検討してもらいたい。  
次に、学校支援の関係で意見を。

○E委員 学校図書館を活発に使う子ども、教員を増やすため、図書館や本を活用した授業を考えている。例えば、さるびあ図書館に協力してもらって、授業で学習したことをより深くわかる本を届けてもらったことがある。今の動きとしては、図書館を使えるような環境を整えよう、子供たちのニーズに答えられるような市の中の図書館を利用しようというのがある。また学級文庫を作って、団体登録してクラスごとに借りるというようなこともやっている。

○委員長 報告を参考に、新たな支援方法、連携を模索していくということだが、何か意見は？

○H委員 現在学校司書がいなくてボランティアのみ。今まで学校司書がいる中での経験しかないので、学校の図書館をどのように活発にしていけるかを逆に教えて欲しいのが正直なところ。

○B委員 町田市では図書指導員が有償ボランティアとして配置されているが、学校司書は配置されていない。指導員の立場はあいまいで、職員ではないので、職員会議にも出られないなど、各学校で仕事の内容も違っているのが現状。学校図書館には支援貸出を受け入れる体制が

確立されていないので、図書館が模索されてもなかなか効果が上がらなかったのが現状ではないか。学校側から支援して欲しい内容を打ち出すようでない、機能するのは難しい。

また、教員の初任者研修で図書館研修があるが、一般の教員や管理職にも図書館研修を受けられるようにして図書館を使うことを学んでいただくのも学校支援となるのではないか。

一方、現在の図書館の資料費は支援貸出制度が始まった 2008 年度の 3 分の 1 程度になっており、最近では支援貸出で貸し出された本が古いという声を聴く。学校支援を充実させるためには資料費の回復は急務だ。

- 委員長 図書館だけでの問題ではなく、学校教育部とも連携して考える必要があるかと。他には？
- C委員 小学校と中学校での本に対する読書活動の差が大きい。中学生でも継続して本を読む環境を整えることが必要。子供たちのニーズなども考慮して、図書館が支援する必要があるのでは。
- I委員 一律の支援ではなく、各学校の要望に応じたことができるように。
- G委員 図書館を使いこなすステップとして、学校図書館があるという状況にしていくべきだが、なかなか難しいと感じている。
- 委員長 次「地域協働による図書館運営について」何か意見を。
- F委員 書き方が気になる。職員の代わりにボランティアが行うようにみえる。専門的な知見を生かして貢献してもらおうという面から言うと、代替ではなく付加的な新たなサービスを行うように書く方がいいのではないか。
- 事務局 職員の代替えのつもりはない。地域の方に気軽に寄ってもらうようなイメージ。書き方を改めたい。
- 委員長 ボランティアの活動内容、付加価値としてどのようなことをやってもらうかを考えてほしい。

- B委員 配架が例にあがっているが、配架は司書が本の動きからニーズなどを読み取ることのできる機会として大切な仕事なので、ボランティアにさせていただくのは疑問だ。何をボランティアの人と一緒にやるのか、どのように言葉かけをするかは、利用者との信頼関係にもかかわる。普段利用者と接している職員の声も聴いてほしいと思う。
- I委員 新たな分野を作りたいのかなと思う。お話し会、音訳・点訳などを今行っている方々からのアイデアを聞いて、可能なものから実行していくのもいいのでは。
- 委員長 参画という言葉があるから、そこから考える必要があるかと。
- A委員 どのようなことを協働でやるのかも、ボランティアと相談して決めてもらいたい。ボランティアと本当に連携するならホームページ上に専用ページを作るなど協働する姿勢をもってもらいたい。
- 委員長 窓口をつくるとボランティアも参加しやすい。他は。
- C委員 図書館は極めて高い専門性をもっているので、ボランティアでは代替できない。表題の書き方も「図書館を中核としたコミュニティづくり」や「図書館を取り巻くボランティア活動の活性化」といったようなものに変更した方がいい。
- 事務局 誤解を招くような表現は改めたい。
- 委員長 4つ目「中高生の居場所づくり」については。
- A委員 勉強スペースを作るだけではなく、居場所づくりとしてはもっと広く考えた方がいいと思う。鶴川駅前図書館の下のフリースペースには勉強する場所があり中高生が集まっているので、そこでイベントを行うとか、子どもセンターなど、すでに中高生がいる場所に出向いて連携することを考えたほうがいいのでは。図書館で待つのではなく。
- 事務局 図書館でお茶を飲みながら勉強するスペースが欲しいという声がある。学習スペースがほしいと。この夏の土日祝、中央図書館で試行

したら 15 グループの利用があった。

- 委員長 他には。
- F委員 これから社会にでる年齢層なので、技術を楽しみながら学んでもらう工夫もいいのでは。映像や音楽の編集、プログラミングなど。
- C委員 「勉強」とは何か。ただ中高生が図書館にいればいいというだけでなく、学校の施設を借りて、誰かを派遣して、イベント的なことや、今後の役にたつコンテンツを提供するとか、多重的な学びを考えた方がいいのでは。
- D委員 武蔵野プレイスに行ってみた。中高生のみを隔離したようなスペースがあった。この考え方はすごいなと思った。またシリウスでは、一人の方も来てもらおうというコンセプトで、年齢層も幅広かった。シリウスの懐の深さを感じた。居場所としての図書館の機能は多様化して欲しいと思う。
- 委員長 今までの意見は、それぞれのプランの意見であるとともに、2024 年度以降にも反映してほしい。他は。全体を通して。
- B委員 「居場所」と言っても人それぞれ。「居場所」という概念をもう少し深く検討して欲しい。何かをすることによって、追い出される子供がいないように。
- 委員長 2024 年度以降についても多様な観点からご意見をいただきたい。
- A委員 第 4 次子ども読書推進計画については、第 3 次の計画を継承して、一部を変えている形になっている。第 3 次の中で小学生の不読率が下がっているのは計画が成果を生んでいないということではないか。第 5 次の推進計画を検討する際には、前回の計画の踏襲ではなく早めに図書館を中心に市民と各部署と共に一から考え直すべきではないか。
- B委員 素案を作成するにあたって、ワークショップなどを開いて市民の考えを深くとらえて欲しい。図書館を生活の中でどのようなものか

について身近に考えていないのではないか。図書館と一緒に生活をする、という風になるには、対話が大切だと思う。

○委員長 いろいろな会議などで根本から考える必要があるのでは。次回にも意見を出して欲しい。では、次「運営手法」について事務局から説明願いたい。

○事務局 図書館の運営体制を見直すのに当たり、運営手法と着眼点を整理してみた。まず運営手法を3種類で比較。「直営の運営」「カウンター業務の委託」「指定管理者制度」。次にこの3つの運営方法を3つの着眼点「サービス面」、「コスト面」、「組織管理面」でメリット・デメリットを挙げている。これらのことについて、次回10月31日に意見をいただきたい。

○委員長 他の自治体の情報なども欲しい。次回委員のみなさんから意見を出してほしい。次「外部評価」について事務局から説明願いたい。

#### 【2018年度図書館評価の外部評価について】

○事務局 全22項目について、2018年度の実績等が記載してあるので、それぞれに対して評価をお願いしたい。補助資料は、別途送付する。本日、分担を決めてもらい、1月の協議会で最終案が出そろうようなスケジュールで考えている。

○委員長 各事業の評価の欄の「2018外部評価者のコメント」を埋めていく、ということでもいいか。

○事務局 その通り。

○B委員 今まで、グループに分けて担当する項目を決めて、会議を開いて内容を検討してやってきたが、今回もこのやり方でやりたい。会議として全員が集まるのみではなく、メールを活用すれば大丈夫かと。

○A委員 関連する項目で分けて、委員をグループに分けて、グループごとに

まとめていく、という方法でできると思う。1回は集まって、あとはメールでという方法で柔軟にやれば。今までは3つに分けていたが、2つでも3つでもいいかと。図書館を介さずに行っていく。

○事務局 事務局を介さずにメールでのやりとりについて、異議のある方はいないか。場所のみの提供で事務局は介さない。委員長に一任する。

○委員長 では、終了後に相談したい。

### 【図書館からの報告】

○委員長 次「図書館からの報告」を

～～図書館長報告～～

まず、第3回市議会定例会について。一般質問として友井議員、大西議員から質問があった。友井議員については、「図書館のありかた見直し方針について」ということで、昨年度まとめたことを答弁。次に「中高生、ビジネスマン等が活用し易い図書館とは」ということで、今やっていることを答弁。また、「相互利用」については、現在行っている市の現状と、今後の検討として横浜市の旨を答弁。大西議員については、共産党機関紙の購入についてということで、図書館は資料として購入していると答弁。常任委員会で行政報告1つ。「システム更改に伴う臨時休館について」。年末年始の休館を含めて、利用者へのサービス低下を減らすよう配慮した。

次に教育委員会で9月12日。システム更改に伴う臨時休館について及び原案が固まったので子ども読書推進計画の市民意見募集と概要を説明した。最後に、事業評価を11月24日に行う。図書館と生涯学習センターについての2つの課ことをまとめて評価してもらう形となる。

○委員長 確認・質問は？なければ事務局にお返しする。

○事務局 今回は10月31日。第4回は1月の予定。日程を調整させていただき改めて連絡する。

終了